

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年12月24日

協議会名: 安城市総合交通会議

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C 評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C 評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
名鉄バス(株)	【地域間幹線系統】 あんくるバス 西部線・作野線 新安城駅南口～三河安城駅中央口～新安城駅南口		A 計画どおり事業を実施した。	A ・西部線・作野線の利用者数は、西部線が69,518人、作野線が73,447人で、合わせて142,965人となり、目標値である111,000人を上回った。 ・大型商業施設開業等に伴う移動需要の増加に加えて、各種利用促進策の継続実施により、利用者は順調に増加している。(前年比の110%) ・輸送量 当該年度計画52.4 当該年度実績:54.5 平均乗車密度7.9 運行回数6.9回 ・収支率 当該年度計画24.29% 当該年度実績21.75%	・公共交通全体の利用者は増加傾向であるため、これまでの施策を継続実施するとともに毎年度実施内容の評価・検証し、翌年度の事業に反映する。 ・小中学生夏休み無料キャンペーンなど、未成年にあんくるバスを知ってもらえる事業を実施することで、将来的な利用者の増加を促していく。 ・安心してバスを利用してもらえるよう、代車運行や工事による迂回運行等、SNSを活用した情報発信に努める。 ・民間商業施設等と連携した利用促進策を展開することで、より多くの利用者数の増加を図る。
東伸運輸(株)	【地域間幹線系統】 あんくるバス 東部線 北部福祉センター～JR安城駅～北部福祉センター		A 計画どおり事業を実施した。	A ・東部線の利用者数は32,530人であり、目標値である29,400人を上回った。 ・日常的な利用の維持に加えて、各種利用促進策の継続実施により、目標値を超えた数値で推移している。(前年比の99.1%) ・輸送量 当該年度計画 31.1 当該年度実績 35.8 平均乗車密度 5.2 運行回数 6.9回 ・収支率 当該年度計画 19.64% 当該年度実績 14.67%	・出前講座等を活用して地域と関わり、公共交通に対する意識の醸成を図る。 ・ららぽーと安城開業等に伴う利用需要の増加に対応するため、バス車両の大型化を実施し、利用しやすい環境を整える。 ・あんくるバス東部線と北部線の乗り継ぎをしやすいするため、北部線のダイヤを改正し、利便性向上を図る。